

(様式 3)

農業研究成果情報

No. 839 (平成 30 年 5 月) 分類コード 02-09 熊本県農林水産部

加温栽培ヒリュウ台「肥の豊」の成木初期における安定生産のための適正着果量

安定して着花を確保するための成木初期の単位樹冠容積 (1 m³) 当たりの着果数は、3L・4L 階級の果実割合が高く、翌年の着花や収量も確保できる 14 果程度が適当である。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室 (担当者: 藤澤 珠子)

研究のねらい

加温栽培の「不知火」においては、低糖によりデコポンの基準を満たさない低品質果実が問題となっている。ヒリュウ台「肥の豊」はカラタチ台「不知火」に比べて、糖度が高い果実が生産されやすいことから、高品質なプレミアムデコポンの生産が期待されている。しかし、ヒリュウ台「肥の豊」における、安定生産のための適正着果量は明らかにされていない。そこで、着果量の違いが果実階級、果実品質、翌年の着花 (果) に及ぼす影響を明らかにし、連年安定生産可能な成木初期の適正着果量を明らかにする。

研究の成果

1. 果実階級は、単位樹冠容積 (1 m³) 当たりの着果数が少ないほど大玉の果実割合が高い。また、単位樹冠容積 (1 m³) 当たりの収量は、17 果区が最も多い (表 1)。
2. 果実糖度は 17 果区が最も高く、14 果と 11 果区はやや低く同程度である。着果量が多いと糖酸ともに高くなる傾向がみられる (表 2)。
3. 翌年の着花状況は、単位樹冠容積当たりの着果数が多いほど、結果母枝長は短く、花は少なく、無着花新梢は多くなる (表 3)。
4. 翌年の 1 樹当たり収量は、14 果区が最も多い (図 1)。

普及上の留意点

1. 本成果は、加温栽培ヒリュウ台「肥の豊」5～6 年生樹を用いて、2 月上旬から 15℃で加温開始し、満開が 3 月 20 日頃となる作型の結果である。

【具体的データ】

No. 839 (平成 30 年 5 月) 分類コード 02-09 熊本県農林水産部

表 1 加温栽培ヒリュウ台「肥の豊」における着果数の違いが果実階級、収量に及ぼす影響
(2016, 2017 2 年平均)

処理区 (果/m ³)	着果数 (果/樹)	果実階級(%)						1樹収量 (kg/樹)	樹容積あ たり収量 (kg/m ³)	樹容積 (m ³)	1果重 (g)
		M	L	2L	3L	4L	5L				
11	46	0	1	9	32	41	16	15.9	4.10	4.5	346
14	69	1	2	16	28	32	21	24.4	5.24	5.2	359
17	79	3	8	30	34	17	9	23.2	5.60	5.4	294

注 1) 2016 年 12 月 6 日収穫、12 月 13 日調査、2017 年 12 月 6 日収穫、12 月 21 日調査 (調査樹各区 4 樹)

注 2) 摘果は 6 月中旬に単位樹冠容積 (m³) 当たり 18~20 果程度まで粗摘果を実施。7 月中旬に処理区毎の着果数に仕上げ摘果を行い、試験区毎の着果数に合わせた。

表 2 加温栽培ヒリュウ台「肥の豊」における着果数の違いが果実品質に及ぼす影響

処理区 (果/m ³)	糖度(Brix)			クエン酸濃度(%)		
	2016	2017	2カ年平均	2016	2017	2カ年平均
11	13.1	13.9	13.5	1.00	0.99	0.99
14	13.3	13.8	13.5	1.00	0.99	1.00
17	13.9	13.8	13.8	1.01	1.25	1.13

注 1) 2016 年 12 月 6 日収穫、12 月 13 日調査、2017 年 12 月 6 日収穫、12 月 13 日調査

(調査樹各区 3 樹、調査果数 1 樹 5 果)

注 2) かん水は 9 月上旬以降節水管理を行った。

2017 年のかん水量は 9 月 20L/樹、10 月 26L/樹、11 月 26L/樹。

注 3) ビニルは通年被覆であるが、2017 年は 9 月の台風時にビニルを除去し全面マルチを被覆し、台風通過後にビニル再被覆を行い、マルチを除去した。

表 3 加温栽培ヒリュウ台「肥の豊」における着果数の違いが翌年の着花等に及ぼす影響
(2017)

処理区 (果/m ³)	結果 母枝長 (cm)	節数 (節)	総花数 (本)	有葉 総状花 (本)	有葉 単生花 (本)	直花 (個)	総花数 (個)	無着花 新梢 (本)
11	17.3	10.0	5.1	0.9	4.2	0.3	8.4	0.4
14	14.4	9.0	2.8	0.2	2.6	0.1	3.5	1.6
17	10.0	6.8	0.8	0.0	0.8	0.0	0.8	2.3

注 1) 2017 年 3 月 14 日調査。調査樹各区 4 樹、平均的な長さの結果母枝 4 本/樹を調査。

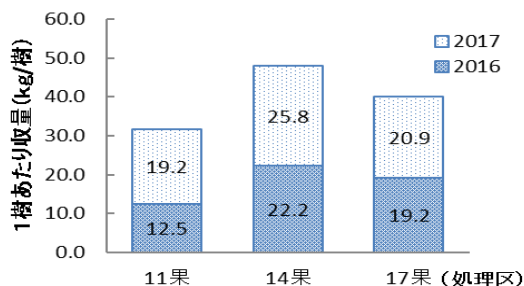


図 1 加温栽培ヒリュウ台「肥の豊」における着果数の違いが当年と翌年の収量に及ぼす影響

注 1) 調査樹各区 4 樹

注 2) 17 果区は着果数不足のため、2017 年の粗摘果未実施